

## 看護学科の教員養成の目標と達成計画

### 教員養成の目標

健康科学部看護学科では、開学以来「教養と感性」「柔軟な思考」「自己教育力」の理念のもと、看護の実践を基本とした高度な専門的知識・技術、幅広い教養を身に付け、対象者の立場に立ち、科学的に判断し、主体的な看護を展開する能力を養うことを重視した教育を行ってきた。

養護教諭養成課程では、これまでの看護師・保健師養成教育の実績に基づいて、医学、看護学、公衆衛生学などの幅広い専門分野の知識と実践力、養護学の基礎知識と実践の能力と教諭としての資質を兼ね備えた養護教諭の養成を目指す。更に教育に関する理論と実践を教授・研究することを通して広く教育現場で活躍できる創造性豊かな人材を育成することを目標とする。

学校において唯一医学・看護学の専門性を持つ養護教諭としての自覚を持ち、その立場から児童生徒は言うまでもなく、教職員への指導助言ができる立場にあることを意識した職業専門人として活躍できる養護教諭を養成する。

### 教員の養成の目標を達成するための計画

養護教諭は学校保健の中心的な役割を担い、児童生徒の保健管理・保健教育の推進者となる役割を担う。その役割は多岐にわたり、その役割を遂行するためには様々な資質が求められているが、中でも学校においての最重要課題である児童生徒の生命と安全を守るために危機管理能力は他の教職員、保護者から期待されている。看護学科での学びや実習は様々な養護教諭資質能力の養成の基盤となるものであるが、特にこの危機管理能力は看護学科において学んだ知識、実習の成果が発揮でき、児童生徒の安全を守るために有用な実践力となる。

看護学科で看護師資格と養護教諭1種免許の資格を併せ持つことの強みは、とくに、フィジカルアセスメント能力、学校において日常的に発生するけがや病気への適切な対応、児童生徒、保護者などとのコミュニケーション能力、重篤な症状、事故時の冷静な判断による専門的技術、豊富な看護的能力の獲得である。この能力を発揮することにより、児童生徒は言うまでもなく、保護者、他の教職員から信頼される養護教諭となるよう育成に努める。

また、教育は人間の可能性を最大限に発揮できるものと考え、養護教諭養成課程の教育内容の特色として、児童生徒の発育発達と心と身体のしくみ、生活・環境、社会と健康とその支援方法などの基礎理論を基盤とし、児童生徒の心身の健康課題への教育的支援、保健室経営、校内外連携など養護教諭としての教育実践力を身に付けることができるよう講義と実習を行う。その方法の一つとして、新見市教育委員会及び各学校との連携をより強化しつつ、教育委員会や現在教育現場で活躍している養護教諭を講義や実習指導者として連携して実践力の向上を目指す計画である。

平成9年に養護教諭の新たな役割として「児童生徒の身体的不調の背景に、いじめなどの心の健康問題がかかわっていることなどのサインにいち早く気付くことのできる立場にあり、ヘルスカウンセリング（健康相談活動）が一層重要な役割を持ってきている（中略）現代的課題など近年の問題状況の変化に伴い、従来の職務に加えて専門性と保健室の機能を最大限に生かして心の健康問題にも対応した健康の保持増進を実践できる資質の向上を図る必要がある」とされており、ヘルスプロモーションの理念に基づいた健康教育の推進が求められている。健康科学部看護学科において看護基礎教育の中で培われたヘルスプロモーションの考え方をもち、対象となる児童生徒の心身の健康課題の解決にかかわることのできる養護教諭に養成に取り組みことができるものとする。

教育実習に関しては全員が新見市教育委員会と連携して新見市内の小・中学校で実施し、実習以外でも学修支援ボランティアとして、様々な支援に関わり、児童生徒の日常的な学校生活を学ぶ機

会となり、学生は学修支援に対する関心を高めるとともに、学校教育現場を経験し、教育に関心を持ち、養護教諭のみならず他の教員への関心への高まりが期待できる。

さらに、医療技術の進歩や小児医療、在宅医療の進歩とノーマライゼーション教育の発展により、医療を受けながら学校生活を送る児童生徒が増加している。このような社会の状況を捉え、学校保健における健康課題を解決するために医療的知識などの高度な専門知識と実践力、児童生徒の問題解決能力など主体性を育成し、一人ひとりの児童生徒を尊重した指導・支援ができる実践的指導力を持ち、人間性を兼ね備えた質の高い養護教諭の養成に取り組む。

新見市内には特別支援学校「岡山県健康の森学園」があり、障害を抱える児童生徒への支援、教育方法、学校において医療的ケアを受けながら、学校生活を送る児童生徒に対する保健指導の実践などの実際を知ることができる場があるため、近年の学校教育の中で避けて通ることができない重要課題である発達障害教育を学ぶことができる。また同じ市内にあり、日常的に交流をすることが可能で、小学校・中学校の学校現場のみならず実践の場も広がっていき、インクルーシブ教育を学ぶ場として継続的に活用していく。

現在、子どもの健康課題の複雑化、深刻化に伴い、学校内外より養護教諭に大きな期待が寄せられている。これからの養護教諭に求められる資質能力はますます求められていくこととなる。チーム学校の重要な一員として、看護学科で学び獲得した知識技術の上に教育学的視点を織り込み教育を行っていくものである。